

平成30年 年頭のごあいさつ

行田市長 工藤正司

明けましておめでとございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい希望に満ちた新年を健やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。

本年が皆様にとりまして、幸多き素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、昨年4月、本市は「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として、埼玉県内初となる「日本遺産」に認定されました。これは、「行田足袋」や「足袋蔵」をはじめ、行田の特色や歴史的魅力が高く評価されるとともに、これまで国の交付金などを効果的に活用して進めてまいりました歴史の街路やまち並み景観の整備など、古いものを大切にしながら、新しい文化を生み出す。本市のまちづくりが認められたものであり、大変名誉なことだと思っています。

なお、この日本遺産は、認定を受けることそのものがゴールではありません。本市は、認定後ただちに、「日本遺産地域活性化ビジョン」を策定するとともに、「行田市日本遺産推進協議会」を立ち上げるなど、認定は新たなまちづくりのスタートであるとの考えのもと、日本遺産を効果的に活用するための取組を官民一体となって進めてまいりました。また、行田を舞台に老舗の足袋業者がランニングシューズの開発に奮闘する姿が描かれた

池井戸潤氏のヒット小説「陸王」がTBSテレビ日曜劇場でドラマ化され、10月から年末にかけて放映されました。ドラマには市内の風景なども数多く登場しており、行田の魅力を全国の方に知っていただく絶好の機会となりました。

「日本遺産認定」や「陸王」を通して、行田市は今、全国から熱い注目を集めています。本年は、こうしたチャンスを行田市のさらなる飛躍へと繋げるため、行田の魅力を広く発信するとともに地域資源を生かした行田ならではの施策を積極的に展開してまいります。

また、これまで埼玉県の関係機関と協議を重ねてまいりましたが、その成果が実り、昨年より埼玉県企業局による新たな産業団地整備の可能性調査が、「若小玉地区」で実施されています。調査の結果、産業団地の整備が決定となれば、新たな雇用の創出をはじめ、様々な経済効果をもたらすものと期待しております。

今後とも私は、行田のあるべき未来をしっかりと見据え、全ての市民の皆様が将来に夢と希望が持てる「笑顔あふれる元気な行田」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

どうか本年も、市民の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新春 対談

歌で伝える 美しい日本語

由紀さおりさん × 工藤正司市長

童謡や唱歌、 美しい日本語について

歌手、女優、司会者など、幅広い分野で活動を続けている由紀さおりさん。昨年11月に行田中学校で開催された「手づくり学校コンサート」で姉の安田祥子さんとともに童謡・唱歌、そして日本語の素晴らしさを伝えてくださいました。海外でも積極的に活動されている由紀さおりさんに、歌や日本語、そして子供たちへの思いなどを伺いました。

工藤正司市長（以下、工藤市長） 今日、由紀さんとお話しできる機会を持って大変嬉しく、光栄に思います。また、先日は行田中学校で「手づくり学校コンサート」を開催してくださり、本当にありがとうございました。由紀さん、安田さんの美しい歌声と日本語への想いに生徒や保護者、地域の皆さんも大変感動していました。コンサートでは生徒に将来について励ましの言葉をかけていらっしゃいましたか、今回のコンサートで感じた事、思ったことはありませんか。

由紀さおりさん（以下、由紀さん） 先日のコンサートでは、生徒のみなさんが私たちの歌をすごく素直に聞いてくださり、恥ずかしがりながらも歌ったりコメントしたりしてくれて、とても嬉しかった。

たです。行田市のように空が広くて空気が美味しく、家庭で季節のものが食卓に並び、まちに生まれ育った子どもたちはゆったりしていて、それがコンサートの中の笑いや姿勢によく現れていました。都会では素直な情感が出てくるのに時間がかかるものです。これは、個性やアイデンティティのベースとなるもの、例えば足袋や古道具、田んぼアートなど行田ならではのものを大切にしている町だからだと感じました。子供たちにはここで暮らしている事についてもっと意識して大事にしていってほしいと思いました。

工藤市長 「手作り学校コンサート」は応募が多く、来ていただけたのは本当に幸運なことだったと感じています。こうした学校コンサートを2002年7月から行っているのを伺いましたが、どんなきっかけで始められたのでしょうか。
由紀さん 私のデビュー15周年コンサ-

